

第1回みえインバウンド誘客計画検討有識者会議 概要

- 1 日 時 令和7年10月30日（木） 15時00分から16時50分まで
- 2 出席者
有識者 石阪委員（会長）、伊与田委員、迫間委員（柴原委員代理）、
須崎委員、高木委員、本保委員、三重野委員、山田委員
県 知事、副知事、観光部長、観光部副部長、観光部次長
発表者 観光庁国際観光部国際観光課長
- 3 主な意見
 - ア 基本的な考え方（めざす姿）に関すること
 - ・ インバウンド誘客に向けては数値目標も大切であるが、歴史や自然・食などの観光資源の特色を生かして、例えば三重に来ればゆっくりと過ごすことができるといったブランディングを進めることが重要。
 - イ プロモーションに関すること
 - ・ 関西国際空港からの誘客が重要である。
 - ・ インバウンドに県境は関係ないため「三重県」を売る必要はなく、県内のそれぞれのコンテンツの認知度を高める必要がある。
 - ウ 宿泊施設・交通などの受入体制（観光インフラ）に関すること
 - ・ インバウンドの受入に向けた宿泊施設の整備を行うことが国内旅行者の受入にも繋がる。
 - ・ ホテルからの移動手段がないので、夜間は外出しにくいと感じられている。
 - エ 推進体制に関すること
 - ・ DMO※¹やDMC※²の体制強化と観光に従事する職員の育成が必要。
 - ・ 地域として国や県が有するデータを幅広く活用したい。

※1 DMO（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）
：観光地全体のブランド戦略やマーケティング、統計データの収集と活用、各ステークホルダーの調整役を果たす組織

※2 DMC（デスティネーション・マネジメント・カンパニー）
：主に観光商品や体験コンテンツを企画・造成・運営する民間事業者